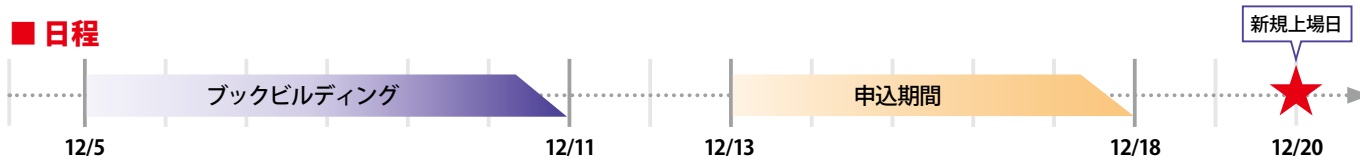


IPO銘柄 オプトラン (6235・東証所属部未定)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
6235	100株	公募: 420.00万株 売出: 300.00万株 (OA108.00万株)	1,420円~1,460円 (11.0倍)	大和証券



米アップルが主要顧客の光学薄膜装置製造会社

■ 事業内容

光学薄膜装置の製造、販売を手掛ける。光学薄膜はレンズなどの光学部品の表面にコーティングを行い、反射防止や赤外線カットなどの機能を持たせる加工。デジタルカメラやプロジェクターなど一般光学部品、スマートフォン(スマホ)やタブレットなどのタッチパネル、LED照明、車載カメラ、認証センサーなどに用いられている。光通信向け装置が主力だったが、光学向けやLED、タッチパネル向けの需要が拡大。足元はスマホのカメラモジュール向け、タッチパネル向けが売り上げの中心で、IoT (モノのインターネット) 関連で市場規模の拡大が期待される生体認証、車載、VR/AR (仮想現実/拡張現実)、半導体光学融合などの分野に力を入れている。成膜装置事業の単一業態。

■ 特徴

大株主にアルバック (6728)、JSR (4185)、オハラ (5218) などの上場企業があり、17年12月期第3四半期累計で売上高の3分の2を米アップル向けが占めた。光学薄膜では、設計やプログラミングによる条件設定までの薄膜プロセスが重要で、同社は各段階のノウハウの蓄積により、より質高くスピーディーに製膜装置を提供することができる。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年12月期の連結経常利益は前期比3.0倍の61億7,400万円を計画する。足元はスマホ向け製膜装置の検収が進んだことで好調に推移。大幅な増益を見込んでいる。光学薄膜市場には強い引き合いがあり、受注動向も好調。ただ、市況の影響を受けやすい業態ではある。

■ 定性分析

足元の業績は高成長しているが、東証1部への直接上場が見込まれ、需給妙味も大きくない。IPO案件が集中する中で優先度は低そうだ。市況の影響を受けやすい業態で、業績動向にブレが出やすい点は株式市場関係者の評価を得にくい可能性がある。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は120億円程度。東証1部への上場が現実視される案件としては特段の荷もたれ感はないものの、12月のIPOラッシュの終盤戦の上場が予定されているだけに、参加者に買い疲れ感が台頭している可能性が高い。(小泉健太)

■ 類似企業

オプトラン(6235・東証所属部未定)	予想PER11.0倍 (仮条件上限)
アルバック (6728・東証1部)	予想PER13.4倍
昭和真空 (6384・JASDAQ)	予想PER12.5倍

■ 引受証券

大和証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、みずほ証券、野村證券、むさし証券、岡三証券、SBI証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年12月期(実績)	15,278	—	2,189	—	1,484	—	41.7	6.67
16年12月期(実績)	14,903	▲2.5	2,030	▲7.3	1,466	▲1.2	41.2	9.33
17年12月期(会社予想)	33,454	2.2倍	6,174	3.0倍	4,732	3.2倍	132.3	33.00

※ 15年12月期より連結決算
 ※ 17年3月と10月に株式分割(1株→1,000株、1株→3株)を実施。15年12月期と16年13月期のEPSおよび配当金は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年12月期	16,520	15,511	9,822	400	274.3	63.0	16.1
16年12月期	16,520	21,730	10,633	400	298.2	48.9	14.4

※ 15年12月期と16年13月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	オプトラン	8,730,000	18.26
2	浙江水晶光电科技股份有限公司	7,260,000	15.19
3	アルバック	6,450,000	13.49
4	孫 大雄	3,540,000	7.40
5	JSR	3,000,000	6.28
5	大和PIパートナーズ	3,000,000	6.28
7	Cernobbio Investment Ltd	1,338,000	2.80
7	肖 連豊	1,338,000	2.80
9	理研電線	1,275,000	2.67
10	林 為平	1,110,000	2.32

経営陣

役職	氏名
代表取締役(会長)	孫 大雄
代表取締役(社長執行役員生産管理部長)	林 為平
取締役(常務執行役員管理部長)	高橋 俊典
取締役	小田木 秀幸
取締役	範 崇国
取締役	樋口 武
取締役	山崎 直子
常勤監査役	小林 信一
監査役	清野 英夫
監査役	兪 建初

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。